

# インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム実証実験 実施結果

## 開催概要

日時	平成 29 年 10 月 12 日(木) 14:00~16:30
場所	2号橋 (阪南市桑畑地先)
参加者	地方自治体：23名 (大阪府、奈良県、大阪市、貝塚市、岸和田市、 泉南市、十津川村、阪南市、松原市、守口市) 民間企業等：36名 (14社) 実験実施者：3名 (NME 研究所) 事務局：11名 (国土政策研究会) 国土交通省：4名 (近畿地方整備局) メンター：1名 (近畿情報ワーキング長)  出席者合計78名
施設管理者・ ニーズ	[施設管理者：阪南市] 求める技術：橋梁の近接目視点検、打音検査を支援する技術 点検者の移動を支援する技術 条件：桁下条件により、高所作業車の使用、足場の設置が困難 道路は通行止め不可 (一時的・短時間の通行止めは可能)
実証実験実施者・ シーズ技術	[実証実験実施者：NME 研究所] 狭幅員橋梁に用いる移動式検査路 (ブリッジハンガー)



実証実験の様子

## 実施状況

### 【移動式検査路の設置】

- 橋梁検査路は4tユニック1台にて現場に搬入
- 市道を通行止し橋梁検査路を設置、所要時間約25分
- 設置後、通行規制を解除し一般車輛の通行が可能



### 【施設管理者：阪南市による検証】

- 阪南市職員が実際に移動式足場を利用して点検作業への適用性・改良点の確認、人力移動による作業性やその際の揺れなどに対する安全性を体感



(左からメンターの坂野先生、施設管理者の阪南市、実証実験実施者のNME研究所)

### 【施設管理者：阪南市の意見】

- 設置に短時間の交通規制は必要とするものの、設置後は通行可能な状態で点検が可能であり、本市の求めるニーズ（課題）に対して、非常に有効な技術であると感じた。また、点検したい場所に人力で移動させることによって、容易に近接目視が可能であったことから有用性を確認できた。
- 一方で、現場状況（架空線や添加物等）によっては、設置が難しいことも考えられる。また、斜橋の場合は検査路が端部まで届かず、点検しづらいこともわかった。これらの課題に対して、さらなる改良を期待したい。
- 実証実験は、マッチングした技術の適用性を直接確認できる有効な機会であると感じた。この実証実験をとおして、今後の橋梁点検の効率化等につながることを期待している。

### 【近畿情報ワーキング長：関西大学 坂野 昌弘 教授の総評】

- 全国70万橋の道路橋のうち50万橋は市町村が管理している。その意味で日本のインフラ維持管理の主役は市町村であり、こういった活動が日本の暮らしを支えていくと考える。今日は、非常に有意義な活動だったと思う。
- 市町村が抱える課題を一つずつ具体的に解決していくことで、みなさんの地域の生活を守る、さらには、経済の活性化を図ることになると思う。
- まだまだニーズ（課題）は残されている。今月はピッチイベントも予定しており、その結果によっては、また実証実験が行えればと考えている。今後とも皆様のご協力をお願いしたい。



## 参加者のコメント（参考（質疑、事後アンケート結果より））等

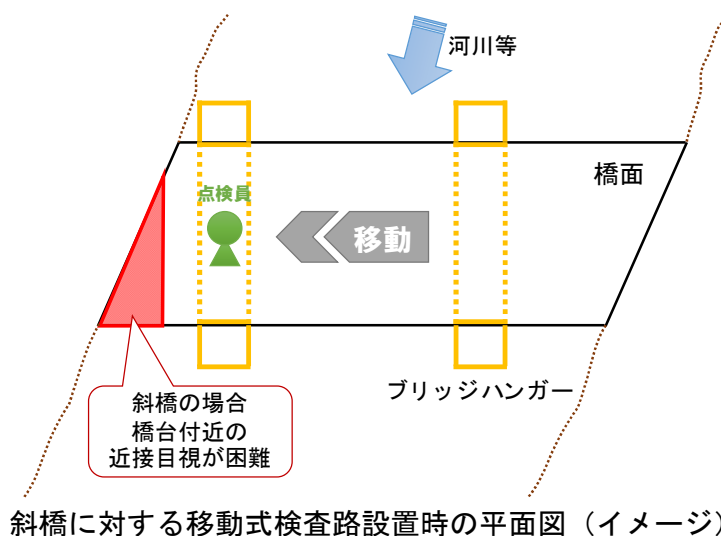
### <地方自治体>

- 狭幅員橋梁に対して有効であるが、架空線や水道等の添加物等の現場条件に対して適用できるか課題も残る。これらの条件があれば導入を検討してみたい。
- 一度設置できれば自由に点検できるため有効だが、橋長が短い場合は高所作業車点検車とのコスト比較をする必要がある。
- 部分的な橋梁補修工事への適用性について検討してみたい。
- 高さの微調整、検査路からの張出し増加などの機能面の改良により、損傷箇所により近接しやすくしてほしい。

### <民間企業等>

- 人力で移動できることは良い。
- 検査路に乗ってみたが、非常に安定していると感じた。
- 安全対策の充実、非常停止装置、警報の設置等（フェイルセーフ機能）について改良してほしい。実用化に向けて法的整理も必要である。

## 実証実験の現場状況等



架空線や添架物などの  
事前確認が必要

実証実験の現場状況